道院だより

しおかぜ

第138号
2026年10月1日発行

少林寺拳法 塩竈道院
仙台杜都道院 発行
取材発行責任者 鎌田礼二
TEL:365-9626 FAX:363-8155
meil : shorinji@c-marinet.ne.jp

宮城県大会開催について

9月13日(日)、「塩釜ガス体育館」で宮城県大会が開催されました。皆さんの協力により「記録(集計)」がスムーズに進み無事終えました。ありがとうございます。

また、競技に参加された拳士の皆さん、入賞はありませんでしたが、貴重な体験になったと思います。今後の修錬に活かして下さい。


2026.09.20 宮城県大会集計スタッフ(塩竈市体育館)

「少林寺拳法体験会」を開催します

10月5日(月)午後7時から仙台杜都道院を会場に「少林寺拳法体験教室」を開催します。

今後、インスタグラムを中心とするSNSで体験者を募集します。所属拳士の皆さんに於いてもポスター掲示と知人等へのお声掛けをお願い致します。

大澤隆管長 縁起

便利な時代だからこそ 行動することが大事

10月になりました。澄み渡る秋空に心地よさを感じる季節となりました。今月は、5日の達磨大師の命日にちなむ「達磨祭」、そして25日の「少林寺拳法創始の日」があります。私たちにとって、自らの修行の原点を振り返り、これからの歩みを考える大切な月です。

達磨大師は、釈尊の正しい教えを伝えるため、数々の困難を乗り越えて中国へ渡られたと伝えられています。また、戦後間もない頃に少林寺拳法を創始した開祖も、今のように交通や通信が発達していない時代に、人と出会い、言葉を尽くし、一人ひとりに志を伝えながら、「人づくりによる国づくり」の運動を広げていきました。

当時は、何かをやり遂げようとしても、今ほど便利なものはありませんでした。遠くへ行くにも長い時間がかかり、必要な情報を得ることも容易ではありません。それでも先人たちは、不便さを乗り越え、時間と労力をかけながら修行の場へ通い、志を持ち続けました。そこには、技術や知識だけではなく、途中で諦めずにやり遂げようとする強い心が養われていたのだと思います。

それに比べて今は、交通機関が発達し、遠く離れた場所にも短時間で行けるようになりました。インターネットを通じて多くの



宮城県大会終了後に

今後の予定

◎ 10月　5日（月）仙台杜都道院　体験会（古城コミニティーセンター）
◎ 10月18日（日）仙台市武道祭（青葉体育館）　◎ 10月25日（日）宮城県連盟昇格考試（青葉体育館）
◎ 10月31日（土）東北連合会（山形市）　◎ 11月　1日（日）宮城武専指導者講習会（青葉体育館）
◎ 11月　8日（日）鎌田礼二議会報告会　◎ 11月15日（日）特別稽古（塩竈道院専有道場）


2026.09.20 達磨祭後の直来で

情報を得ることができ、AIをはじめとする新しい技術も、学びや仕事を助けてくれます。昔であれば大変な時間と労力を必要としたことも、今ではずっと身近になりました。

だからこそ、私たちに問われているのは、それらをどう生かし、実際に行動するかということではないでしょうか。便利になったことで生まれた時間を何に使うのか、得た情報や知識を自分の成長や周囲の人のためにどう役立てるのか。環境が整っているだけでは、何も変わりません。自ら一歩を踏み出して初めて、自分の可能性も、周囲の状況も変わっていきます。

少林寺拳法の修行も、技ができるようになることだけが目的ではありません。何のために修行するのか、少林寺拳法によって自分の人生をどのように豊かにするのか、そして身につけた力を周囲や社会のためにどう役立てるのかを考え、実践していくことが大切です。困っている人に気づき、声をかけることにも勇気がいります。周囲に目を配り、その場で自分にできることを考えて行動する力も、日々の修行の中で磨いていきたいものです。

朝夕は少しずつ秋らしくなってまいりましたが、季節の変わり目でもあります。どうぞ体調には十分ご留意いただき、ご自愛のうえ、今月も日々の修練に励んでまいりましょう。

中国古典 紹介

桃李言わざれども下自ら蹊を成す（とうりものいわざれどもしたおのずからみちをなす）

『史記』

桃や李の樹は美しい花を咲かせ、おいしい実をつける。だから何も言わなくても人が自然に集まってきて、その下には自然に道ができる。それと同じように、徳のある人物のもとには、黙っていても人々が慕い寄ってくるのだという。

漢の時代に李広という将軍がいた。弓の名手で、剛胆な戦い方を得意とし、「漢の飛翔軍」と恐れられたが、ふだんは無口で、朴訥な人柄だった。部下もよく可愛がったらしい。下賜された恩賞のたぐいはみな部下に分け与え、飲食も常に部下と同じものをとった。行軍中、たまたま泉を発見しても、部下が飲み終わるまではけっして飲もうとしなかったし、食料も、部下にゆきわたらないうちは、ついぞ手をつけなかった。そのため部下はみな「李広殿のためならば」と、喜んで戦いにおもむいたといわれてる。

表題のことばは、この李広将軍に捧げられたものである。これもまた理想の指導者像を語ったことばだ。


県大会での親子演武